

■マンションの環境を目視で点検！

設備や建物の点検は実施していますが、共用部分の整理整頓の状態や美観については、点検する機会はあまりないかもしれません。いつも目にしている人にとっては当たり前の光景でも、はじめて来た人には、「散らかっている」「薄暗い」「活気がない」という印象を与えてしまっているかもしれません。ぜひこの機会に、ご自身のマンションの美観状況をチェックしてみましょう。



チェックポイント

エントランス

- 玄関周りはきれいに清掃されていますか。ごみなどは落ちていませんか。
- 掲示物はきれいに貼られていますか。わかりやすく書かれていますか。期限が切れたものがいつまでも貼ってありませんか。
- 集合郵便受けの周りに、チラシなどが散乱していませんか。チラシを捨てるためのごみ箱がいっぱいになっていませんか。

植栽

- 共用スペースにある木が枯れている、伸び放題、雑草が生い茂ってはいませんか。

駐輪場

- 自転車置場に、きちんと自転車が止められていますか。勝手なところに止められていませんか。
- 不要な自転車が置かれたままになっていませんか(シールが貼られていない又は壊れた自転車の放置)。

共用廊下

- 廊下に物が置かれていませんか。
- ごみが落ちていたり、泥などで汚れたりしていませんか。

エレベーター、階段

- エレベーターの養生シートが剥がれたり、汚れたりしていませんか。
- 階段の踊り場などに、ゴミやものが置かれていませんか。

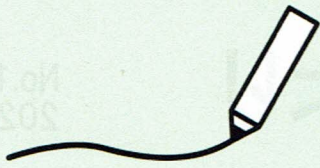
その他

- 外からマンションを眺めた際に、バルコニーに物置が置いてあったり、避難経路を塞いだりしている住戸はありませんか。
- 鉄部の錆、壁の汚れがありませんか。

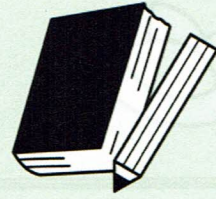


お住まいのマンションが「不健康」なマンションだと思われないように、また、住んでいる人が気持ちよく暮らし、互いを思いやる気持ちが湧いてくるような環境を整えていきましょう。





お役立ち情報



熱中症は日差しが強い屋外だけでなく、意外にも室内で、しかもマンションだからこそ高まる危険が潜んでいます。今回は、熱中症の危険性や対策についてご紹介致します。

熱中症はなぜ起こる??

人は体温が上がると発汗し、その汗が蒸発することで体温を下げます。しかし湿度が高いと汗が蒸発しにくく、体内の水分が不足すると汗を出さなくなります。すると体温が上昇し続け、熱中症になるのです。

特に、マンションの場合、気を付けたいのが就寝中の熱中症です。マンションのように鉄筋コンクリートの集合住宅では、夜間になっても室温が下がりにくい性質があります。その為、外気が下がっても室温が下がらず、夜間を通して暑い状態が続きます。そうした環境下で就寝することで、夜間に熱中症になるリスクが高くなります。

予防対策

ポイント① 温湿度計で部屋の状態をチェック!

室内の温度と湿度をしっかりと管理することが重要です。目安は室温 28 度、湿度 70% 以下になるように管理しましょう。湿度が高いと汗が蒸発しにくくなるので、温度だけでなく湿度管理も行いましょう。

ポイント② 日差しを入れない!

室温を上昇させない為には、日差しを入れないことが大切になります。よしずやすだれ、へちまでつくる緑のカーテンなどを使って、ベランダの床全面に日差しが当たらないようにすることで表面温度が上がらないようになります。ただし、ベランダは共用部分の為、お住まいのマンションのルールによっては設置ができない場合があります。その場合は、室内対策として遮熱・遮光カーテンを取り入れるなどで工夫しましょう。

ポイント③ エアコン(冷房)を適切に使用する!

夜間も室温が下がりにくいマンションでは、エアコンは 28 度設定を目安に、就寝中つけ続けるようにしましょう。昼夜、エアコンを使うことに経済的な負担を感じるかもしれませんが、就寝中は水分補給が遅れることもあり、熱中症につながる可能性が高まります。住宅内熱中症の約 9 割がエアコン(冷房)を使用していなかったというデータもあるように、やはり熱中症対策には温度と湿度管理がとても重要になります。

